

アバーディア国立公園

アニマルフォトグラファー
トラベルライター

平 岩 雅 代

現在、東アフリカには多くの国立公園や、自然保護区と呼ばれている地域があります。

かつて英領東アフリカとして、英国が統治していた時代、この地を訪れた英国人ナチュラリストらの提言により、野生動植物を保全するために、人間の居住を制限する目的で、各地に国立公園や保護区を制定したのが、その始まりです。

国立公園(ナショナル・パーク)や、自然保護区(ゲーム・リザーブ)の中では、勝手に家を建てたり、土地を耕やしたり、動植物を採取したりすることは、禁止されています。

国立公園は国が、自然保護区は地方自治体が管理し、それぞれ責任者で規則違反者の逮捕権を持つ監理官(ワーデン)と、その下で待つ警備隊員(レンジャー)が働いています。

公園内や保護区内では、特定の場所以外で車から降りることも禁止されています。

つまり、野生動物が自由に歩き回る草原を、人間(観光客)が“サファリカー”という権に入って自然の世界に「お邪魔する」写真 1 今や幻の動物といわれるボンゴになります。



写真1 今や幻の動物といわれるボンゴ

とができる宿泊施設があります。自家発電ながら電気もあり、バスと水洗トイレ付きのベッドルームは、平均8畳くらいの広さです。

ほとんどの公園や保護区では、車に乗ってサファリ・ドライブを楽しむ仕組みです。しかし、なかには静かに腰を落ち着かせて、野生動物が水を飲んだり、岩塩をなめにやってくるという、“居ながらサファリ”を楽しむスタイルの宿泊施設もあります。

その代表が、アバーディア国立公園です。

ケニアの首都ナイロビから北へおよそ150キロメートル、ケニアを東西に横切る赤道直下に位置する、面積715平方キロメートルの緑豊かな森林の中にある公園です。



写真2 ロッジの前庭の池に集まるゾウと水牛

アバディア山塊の中にあるため、他の地域では見ることができない動物も暮らしています。

世界四大珍獣のひとつ、ボンゴは、ねじれた角を持つ大型の羚羊で、世界中でも唯一アバディア山塊だけに生息しています。

大きな体に似合わず慎重で臆病なため、今や幻の動物とも呼ばれ、姿を拝むのは至難の業といわれているほど……。 (ちなみに、世界四大珍獣のうち、他の動物は、コンゴの森林の奥深くにひっそりと暮らしているオカピ、コートジボアール、リベリアなどの沼地に暮らしているコピトカバ、そして中国の大熊貓=ジャイアントパンダ=です) アバディアの公園内で、最も有名な宿泊施設が「ツリー・トップ」です。文字通り木の上のロッジで、今から 50 年前に当時英国女王だった現エリザベス女王が、夫のフィリップ殿下とともに当時の英領東アフリカを公式訪問中、宿泊したロッジとして、世界中にその名が知れ渡りました。なぜならば、時の英国王ジョージ 6 世が、その夜に崩御し、翌朝エリザベス女王は「ツリー・トップ」の階段を降りる時、正式な王位継承者として、次期

国王(女王)となったからです。

往時の木は枯れ、現在の「ツリー・トップ」は高い柱の上に建てられています。霧気はかかってのまま。前庭に小さな池があり、動物たちがやって来ます。夜間でも池の周辺はライトアップされ、宿泊客は肉眼や双眼鏡で動物の様子を静かに観察します。

海拔 2,000 メートルを超える山の夜はかなり冷え込みますが、熱いコーヒーや紅茶のカップを手に、時にはあかあかと燃える暖炉の前で暖まって、動物の到来を待ちます。同様の宿泊施設に、ノアの方舟という意味の「ジ・アーク」や、「ツリー・トップ」よりも客室などがやや広い「マウンテンロッジ」があり、いずれも夜が更けるのも忘れて動物たちとの出来いを静かに待つ、ユニークなところです。

ところで、このようなロッジでは、宿泊に際していくつかの規則があります。

まず鳥や猿など、野生動物には絶対に餌を与えないこと。ロッジの中では大きな物音を立てず、動物を見るためにロッジの中で移動する時は走らず、静かに歩く。話し声もできるだけ小さく。夜間動物たちのいる屋外に向けてカメラのストロボやフラッシュをたかないなど、あくまでも主役は野生動物で、人間はその生活ぶりを見学する訪問者である、ということを忘れずにいる気持ちが大切なのです。